

令和2年度 第5回 鳥取市総合企画委員会 議事概要

日 時	令和2年12月23日(水) 14:30～16:30
場 所	鳥取市役所本庁舎6階 会議室6-5～6-8
出席委員	上原幸恵委員、岡村健太郎委員、小谷加代子委員、坂本直副委員長、塩谷義勝委員、下田敏美委員、杉本由美子委員、田中節哉委員、浜江和恵委員、林由紀子委員長、前根伸彦委員、森本孝行委員、山田康子委員、山根滋子委員、山本暁子委員、吉田正委員
欠席委員	田中利明委員、森原昌人委員、矢野順治委員、吉田雅之委員
鳥取市	市長・副市長ほか関係部局長、政策企画課、創生戦略室

<議事内容>

1 開会

【高橋企画推進部長】

ただいまより、令和2年度第5回鳥取市総合企画委員会を開会いたします。本委員会
は全20名の委員様がいらっしゃいますけれども、本日は16名の方にご出席いただ
いております。半数以上の方のご出席ということでございますので、委員会成立でござ
います。なお、事前に、田中委員、森原委員、矢野委員、吉田雅之委員からご欠
席の連絡をいただいております。

2 市長あいさつ

【深澤市長】

市長の深澤でございます。委員の皆様におかれましては、年末の大変お忙しい中、第
5回の総合企画委員会にご出席をいただきまして誠にありがとうございます。また、
日頃より鳥取市政の推進に格別なるご理解、ご支援を賜っておりまして、改め
まして感謝を申し上げる次第でございます。

さて、第11次鳥取市総合計画につきましては、昨年の7月に、この計画の策定につ
いて諮問をさせていただきまして以降、幅広い視点より、また幅広い分野で熱心
にご議論、ご審議をいただいていたところであります。パブリックコメント、市
民政策コメント、またストリートミーティング等で様々なご意見を幅広くいただき
、その都度、この素案に反

映をさせていただいてきたところでありまして、この総合計画、また総合戦略の策定につきましても、いよいよ大詰めを迎えていこうとしているところでございます。来年2月の鳥取市議会に、この総合計画の基本構想を議案として上程をさせていただきたいと考えておりまして、できますれば、1月、年明けには答申がいただければ大変ありがたいなど、このように考えておるところでございます。

この総合計画は、来年度からスタートいたします、10年間の鳥取市の取組についての構想であります。今、社会が大きく変化をしていこうとしておりまして、また新型コロナウイルス感染症もなかなか収束が見通せないような状況が続いておるわけでありまして。年明けには、ワクチンの接種も具体的に進んでいこうとしているわけで、この感染症が収束した暁には、また新たな日常生活、社会が見えてくるのではないかなと思っております。また2025年にはいわゆる団塊の世代の方が一斉に後期高齢者となられる。このように社会が大きく変化していくわけでありまして、そういった時期の非常に大切な、重要な総合計画、総合戦略でありますので、引き続きまして、どうか忌憚のないご意見を賜りますようお願いを申し上げまして、ご挨拶とさせていただきます。本日はありがとうございます。

3 委員長挨拶

【林委員長】

委員長を務めさせていただいております、林でございます。今日は、委員の皆さん、お忙しい中、ご出席いただきまして本当にありがとうございます。先ほど、深澤市長さんから格調の高いお話を伺いましたので、私は1週間前に雪が降った日のこと、出来事を少しだけお話しさせていただいて、挨拶に代えさせていただきたいと思っております。

ちょうど1週間前の水曜日、3年近くぶりになるかと思いますが、前の日から大雪が降りました。通勤のとき、駐車場に入ろうとしたら、かなり雪がいっぱいなかなか入れない。私の前の車も入れずにいたのですが、みんながスコップを持って出て、雪かきをしました。後から来られた方もみんな、どんどん雪かきをしてくださいます、通路がだんだんできていきました。自分の駐車スペースにはまだ雪が残っていたんですが、雪かきを皆さんが手伝ってくださいました。何か久しぶりに全く知らない人と共同で作業して、お話しできたのが、何だかとってもうれしくて。このコロナ禍の中でなかなか人としゃべるとか、一緒に何かをするということができない日が続いていたので、妙にすごく楽しい1日

になりました。

仕事を終わって帰る際、合同庁舎の横を歩いていたんですけども、合同庁舎の職員さんが歩道の横で立ち話をしていたら、ここで転んだら恥ずかしいからと思って、より慎重に歩いていたら、あるところでいきなり滑りまして、尻餅をついてしまいました。何でフラットなところで滑ったのかすごく不思議で、皆さんの前で緊張して滑ったのかななどと思っていたら、その方々が近寄ってこられて、大丈夫ですかと声をかけてくださいました。雪が解けたある日、そこを通ったら、歩道と車道とつなげるためにすり鉢上のスロープみたいな形になっていて、そこに雪がたくさん積もったために気がつかなかったとわかりました。皆さんも、雪道を歩くときには、どうぞお気をつけくださいませ。

今日は、先ほどお話があったように、大詰めのところに来ておりますので、皆さん忌憚のないご意見をどんどん出していただきますようお願いいたしまして、挨拶に代えさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

4 議題

(1) 第11次鳥取市総合計画（答申案）及び第2期鳥取市創生総合戦略（案）等について

【林委員長】

それでは、議事進行させていただきます。座ったままで失礼いたします。

お手元の次第に沿って進行させていただきます。議題（1）第11次鳥取市総合計画（答申案）及び第2期鳥取市創生総合戦略（案）について、事務局より説明をお願いいたします。

【上田政策企画課創生戦略室長】

失礼いたします。事務局の上田でございます。まず初めに、資料の差し替えのお願いいたします。お手元に資料2-2、第11次総合計画答申案の主な修正内容ということでお配りしておりますが、事前に配付させていただいたこの資料、記載に一部誤りがありましたので、修正後のものをお手元に配付させていただいております。修正箇所につきましては、ご覧いただきますとおり、赤字で印字しておりますので、ご確認いただければと思います。よろしく申し上げます。

それでは、総合計画、創生総合戦略につきまして、説明にさせていただきます。最初に、資料1、市民政策コメントの結果をご覧ください。10月16日から11月16日まで1

か月間、市民政策コメントを実施いたしました。32名と1団体の方から合計134件、総合計画と戦略に対してのご意見をいただきました。いただいたご意見につきましては、下の集計表のとおり整理しております。区分として、修正を行ったもの、それから既にご意見の内容を盛り込んでいますというもの、それから今後の参考にさせていただくもの、それからその他ということで整理を行いまして、対応させていただいております。

ご意見を多くいただいた項目を少し紹介させていただきますと、この中の(3)基本構想の中の第4章、時代の潮流とまちづくりの課題、こちらに7件。それから、(4)基本計画の中の第3章、基本施策の推進の中の政策1の未来を創る人材を育むまちづくり、こちらが10件。それから、少し下がります。目標2の中の政策2の人が集う交流と連携のまちづくり、こちらが7件。それから、政策4の快適で暮らしやすい生活環境づくり、11件となっております。

資料を1枚めくっていただきまして、こちらは創生総合戦略になります。真ん中(4)の施策の展開の中をご覧いただきたいと思います。目標Ⅰ-1、結婚・出産・子育ての希望がかなうまちづくり、こちらが33件。それから、少し下の目標Ⅱ-1の稼ぐ地域・仕事と安定した雇用環境づくりが9件。それから、また下の目標Ⅲ-2の快適で暮らしやすい魅力と活力あるまちづくりが11件ということになっております。

続きまして、資料2-1をご覧いただきたいと思います。総合計画(答申案)という資料でございます。先ほどの市民政策コメントのご意見ですとか、市議会からも別途ご意見、ご提案をいただいておりますので、これらを踏まえまして、各部局や事務局で内容を検討させていただきまして、計画と戦略に反映させていただいております。説明につきましては、総合計画と創生総合戦略、それぞれの主な修正箇所を順に説明させていただきたいと思います。また、附属資料としまして、資料2-2の総合計画の主な修正内容、それから資料3-2の創生総合戦略の主な修正内容も添付させていただいておりますので、適宜そちらもご覧いただければと思います。また、修正しています箇所につきましては、段落等に黄色で色づけをしておりますので、それでご確認いただければと思います。加えて、財政の見通しの取扱いですとか、附属資料、用語解説、そういったものも追記しておりますので、併せて説明の中で紹介等させていただきたいと思います。

それでは、まずは5ページをお開きいただきたいと思います。財政の見通しというところでございます。修正箇所の説明ではありませんが、この5ページから6ページ、財政の見通しの数値につきましては、現在暫定数値で答申案とさせていただいております。これ

につきましては、答申後となりますが、令和3年度の当初予算編成を踏まえまして、事務局で数値を修正させていただきまして、予算と整合を図った内容で2月議会に提案させていただきたいと考えております。

続きまして、8ページをご覧ください。時代の潮流とまちづくりの課題の超高齢社会の到来のところとなります。黄色の箇所、3行目の辺りになりますが、修正前は65歳以上に到達することから、65歳以上人口がピークになりということで、65歳が連続で続くような記述となっておりますが、こちらをすっきりできないかというようなご意見をいただきましたので、この65というところを高齢者というように修正させていただきました。一つ上の75歳以上というところも、修正前は75歳以上の後期高齢者としておりましたけども、併せて修正させていただいております。

続きまして、次の9ページをご覧ください。3番の求められる地域共生社会の実現、こちらの黄色の箇所、修正前は「全国的に」から最後の「多様化しています」までが一続きの文章となっております。これについて、少し文章が長過ぎるので、すっきりした記載にできないかというご意見をいただきましたので、赤字の箇所で分割させていただいております。

続きまして、34ページをお開きください。こちらは結婚・出産・子育て支援の中の待機児童ゼロの継続と子育てサービスの充実のところとなります。この中の黄色の箇所につきまして、ファミリー・サポート・センターは利用するときお金を負担しますので、純粹に市民ボランティアという表現はふさわしくないため、ボランティア意識のほうがよいのではというようなご意見をいただきました。そのため、修正前の市民ボランティアによるという記載を、修正後は市民のボランティア意識によるというように修正しております。

35ページをご覧ください。真ん中辺りに子どもの貧困対策とあります。こちらにつきましては、子どもの貧困対策に関する記載がないというご意見をいただきましたので、黄色の箇所に、子どもの貧困対策の推進について追記させていただきました。あわせて、下のほうの(5)SDGsの目標との関連のところ、現在はアイコンを貼っておらず、反映漏れとなっておりますが、SDGsアイコンの1番、貧困をなくそうを追加するように予定しております。また、(4)の評価指標のところ黄色でマーカーをしております。修正前は、アンケート調査で中程度の評価より高い回答をした市民の割合としておりましたけども、この中程度という表現が分かりにくいというご意見をいただきましたので、アンケート調査の具体的な設問で、いつも楽しい、楽しいと感じるときのほうが多い等の表

記に修正をさせていただいております。以降のページにおいても、この中程度という指標の説明が随所にありましたが、同様の理由で修正をさせていただいておりますので、以降の説明については省略させていただきます。

続きまして、36ページをご覧ください。真ん中のあたりですが、修正前は、優秀な人材という記載でありましたけども、こちらの表現を改めたほうがいいのではというご意見をいただきました。そこで、次代を見据えた人材と修正させていただいております。それから、下の施策の基本的方向のところでは、黄色の箇所、こちらにつきましては、全体的に子どもたちの教育に対する愛や想いを感じるような内容にしてほしいというご意見をいただいたため、個別に記載するのではなく、この基本的方向のところに肉づけさせていただき、赤字部分について追記させていただきました。

続きまして、右側、37ページをご覧ください。これの一番上になります。①社会を生き抜く力を育む教育の推進のポツの1つ目、ここの2行目をご覧ください。ここに自己有用感という言葉がございます。この意味がどのような意味なのかというようなご質問をいただきましたので、このページの一番下、用語の解説を追記させていただいております。

67ページをお開きください。持続可能な経済成長の実現についてのページです。この中の黄色部分、②番、販路・取引の拡大のところでは、修正前は、ECサイト販売の促進という記載にしておりましたが、すぐ下にあるとっとり市のアイコンとの関係が分かりにくいというご意見をいただきましたので、記載のとおり、公式インターネットショップ「とっとり市（いち）」等のECサイトというふうに変更させていただきました。それから、ECサイトの用語説明が欲しいというご意見も併せていただいておりますので、一番下の用語の解説のところにも追記させていただいております。

80ページをご覧ください。滞在型観光の推進のところとなります。（2）の基本的方向のところでは黄色で食というものを追記させていただいております。これは、食の観光についての記載がないのではというご意見をいただいたため、赤字のとおり追記させていただいたものです。併せまして、82ページもご覧ください。梨、カニ、和牛等、こちらに食の観光についての内容を加えさせていただいております。

続きまして、隣の83ページをご覧ください。上の⑤の観光関連産業の育成・支援のところとなります。黄色の1つ目のポツにつきましては、観光事業の従事者がいきいきと働けるような支援をしていただきたいというご意見をいただきましたので、誇りや生きがいを持って観光客と接する人材の育成などの内容を肉づけさせていただいております。2つ

目のポツにつきましては、観光情報の発信の強化は重要なので、別に項目立てをしてやっていくべきではないかというご意見をいただきました。別項目ではありませんが、こちらに内容として肉づけさせていただいているところでございます。

114ページをお開きください。こちらは地域防災力の向上の中の⑤番、災害に強いまちづくりの推進です。こちらの黄色の箇所となります。修正前は、建物の耐震化を中心にした記載でございましたけども、ブロック塀についても記載すべきではないかというご意見をいただきましたので、赤字のとおり修正させていただいております。

続きまして、123ページをお開きください。こちらは環境保全活動の推進のところ です。（5）SDGsとの関連のところ、反映が漏れておまして、11番の住み続けられるまちづくりというアイコンを加えさせていただこうと思っております。（3）施策の主な内容の③大気汚染・悪臭対策の推進、こちらがこのSDGsの11番の大気汚染対策という内容と関連しておりますので、アイコンを加えるものです。

124ページをお開きください。用語の解説でございます。こちらは、10月8日の総合企画委員会でご意見をいただきまして、このたび巻末に用語解説一覧ということで追加させていただいたものです。

引き続きまして、創生総合戦略の説明に移らせていただきます。資料3-1の8ページをお開きください。上の保育園の待機児童数のところに、黄色の箇所を追加させていただいております。こちらにつきましては、待機児童は4月1日現在だけでなく年度途中も出る ので、年度途中も目標にすべきではというご意見をいただきました。赤字のとおり10月1日現在についても追加させていただいております。

10ページをお開きください。こちらの下、重点施策の教育の充実・郷土愛の醸成のところとなります。黄色の箇所につきましては、先ほどの総合計画の教育のところ、子どもたちの教育に対する愛や思いを感じるような内容にしてほしいというご意見をいただいたということをご紹介させていただきましたけれども、連動してこちらの記載についても併せて修正させていただいたものです。

少し飛びますが、50ページをお開きください。こちらは用語の解説です。総合計画とこちらと同じになりますが、前回の総合企画委員会でご意見をいただきまして、巻末に用語解説一覧を追加させていただいております。

計画と戦略の修正箇所の説明は以上となります。

続きまして、当日配付資料としまして、委員事前意見一覧をお配りしておりますので、

そちらをご覧くださいと思います。本日の配付資料、総合計画の答申案等、こちらにつきまして、事前に坂本副委員長様からご意見等いただいております。これにつきまして、担当の部局長より回答内容の概要を順次説明させていただきます。よろしく申し上げます。

【橋本市民生活部長】

市民生活部長の橋本でございます。失礼します。いただいた事前のご意見の中で、まず1番について、私から答えさせていただきます。資料の2-1の10ページ、第4章の時代の潮流とまちづくりの課題、6番の交流と連携の活性化の記述の上から4行目のところからです。「また、近年は、「関係人口」として」というところに、関係人口の拡大ということで地方移住の裾野の拡大が期待されていますといった記述をしております。こちらにつきまして、関係人口の拡大、地方移住の裾野の拡大について、鳥取市として考えている課題と対応策についてお聞かせくださいとご意見をいただいております。

こちらに対する回答でございます。当日配布資料に記載しておりますけれども、関係人口と申しますのが、観光以上定住未満の人口というように申し上げておりますけれども、観光にきた交流人口というわけではなくて、地域と多様に関わるそういった人口を指す言葉でございます。地域づくりの担い手として期待されている、そういった方のことを関係人口というふうにお呼びしております。

本市における、この関係人口の拡大、それから地方移住の裾野の拡大についての課題といたしましては、まずはその受皿づくり、取り組んでいただける地域組織の充実が課題であるというように考えております。そこで、昨年度、総務省のモデル事業を活用いたしまして、鹿野地域において、都市部に在住するアーティストや大学生など、こういった方に一定期間鹿野に滞在していただいて、地域づくりに参加していただきました。この事業を通じて得られた成果や課題、特に課題について、やはり地域の情報発信が不足している、あるいは地域のマンパワーが不足していて、関係人口の方になかなか十分に関わることができないこと。それから、地域の住民の方との交流の機会が少ないので、もう少し増やしたほうがいいということ。そういったような課題を、来ていただいた大学生等から挙げていただきました。そして、今年度は、こういった鹿野の先進的な事例を他の地域に広く共有して取組を広げていきたいということで、用瀬地域で取り組んでいただいている事業もでございます。

また、地域の核となる人材の育成につきましては、本市が委託しております地域振興アドバイザーを中心にして、ふるさとリーダーアカデミーというような形でリーダーを養成

するような事業も行っておりますので、こちらの事業にて、地域で主体的に取り組む人材を支援いたしまして、さらに地域団体の活動支援に取り組んでいきたいというように考えております。

それから、鳥取県も同じように、こういった関係人口の拡大に関する事業を行っていただけますので、こういった取組に本市も参加しながら、さらにはワーケーションに取り組む企業とも連携を図ることで、関係人口の拡大に取り組み、移住の裾野の拡大に努めていきたいというように考えているところでございます。以上でございます。

【谷口都市整備部長】

都市整備部長の谷口でございます。私から、いただいたご意見の2番についてお答えさせていただきます。

まず、資料2-1の20ページですけれども、都市のすがたの中で中心市街地、それから地域生活拠点、その他の地域とは、それぞれどこを意図して多極ネットワーク型コンパクトシティを実現されようとしているのか、またその課題についてということで、お尋ねがございました。これにつきましては、次の21ページにコンパクトシティのイメージ図を載せておりますので、これを併せて見ていただきながらご説明をさせていただこうと思います。

まず、中心市街地、中心拠点でございますが、これにつきましては市役所、本庁舎などの行政調節機能や大型デパート、総合病院、交通結節点など、都市の機能の中核を担う施設が集中している、鳥取駅周辺のいわゆる中心市街地を指しているものでございます。市域内外の人々が活発に交流する中心拠点として公共交通の高いサービスを維持しながら、全市民が利用する高次元の都市機能の維持や居住の推進を図って、高い人口密度を維持しようとする区域でございます。

次に、地域生活拠点でございます。これは、駅でありますとか総合支所周辺で、スーパーや診療所などが配置されて、生活拠点が形成されている地域でございます。これらの日常的なサービス施設の集約や促進を行うことで公共交通サービス水準を維持し、長期的に居住の促進を図って、高い人口密度を維持していこうという地域でございます。市街地では末恒駅周辺、鳥大前駅周辺、それから津ノ井駅周辺という区域でございますし、各総合支所周辺も地域生活拠点として、位置づけております。

それから、その他の地域というのは、これ以外の市街化の区域ということでございます。

この多極ネットワーク型コンパクトシティの考え方といいますのは、医療や商業等の生

活サービス施設や公共交通の維持には、地域に一定の人口集積が不可欠であるということがございまして、広く広がった市街地を抱えたまま、今後全市的に人口が減少しますと、これらのサービスの維持ができなくなり、日常生活を営むことが困難になるということが考えられます。こういった観点から各拠点の生活サービス機能と居住を集約、誘導し、人口の集積をしまして、また、各拠点間を利便性の高い公共交通で結ぶことで生活サービス施設の立地と経営を支えまして、市民の生活利便性を維持していこうという考え方でございます。

課題としましては、現在運転者不足や利用者数の減少による路線バスの減便や路線の減少や、人口減少による各拠点の衰退に伴う商業店舗等の撤退などが懸念されておりました、生活サービスの機能を維持していくことが必要となっているところでございます。

次に、創生総合戦略、資料3-1の31から33ページになりますが、この創生総合戦略で実現しようとする姿はどういうものかということでございます。この創生総合戦略で実現しようとしている姿といたしますのは、基本計画の重点施策でございまして、先ほどご説明しましたように、中心市街地と各地域の生活拠点を公共交通のネットワークでつないで、利便性の高い生活環境を確保するとともに、道路ネットワークの整備によって安心して住み続けられる地域の実現を目指そうというものでございます。また、中心市街地につきましても、これまでに第10次総や第1期の創生総合戦略を反映する形で、鳥取市中心市街地活性化基本計画を策定し、活性化施策の推進を図ってございまして、引き続き、活気あふれる中心市街地の形成や様々な世帯の人々が豊かでいきいきと暮らすことができる中心市街地の形成を目指しているところでございます。

次に、交通ネットワークの充実の関係でございまして、資料は資料3-1の36ページをご覧いただきたいと思いますが、このネットワークにつきましても、総合計画で目指す都市の姿であります多極ネットワーク型コンパクトシティに求められている、利便性の高い公共交通等のネットワークの実現に関連する取組としまして、バス路線の再編や道路交通の推進などによる維持可能な交通体系の構築や鉄道の利用促進、それから、利便性の向上対策などを重点施策に位置づけて実施していこうというものでございます。以上でございます。

【林委員長】

ありがとうございます。ここで一遍切らせていただいてもよろしいですか。今、市民生活部長さんと都市整備部長さんから、それぞれ質問に関する回答をいただきました。ここ

までのところで、質問された坂本副委員長さんから今の回答に対する意見があるようです。

【坂本副委員長】

今、2人の部長さんから回答があったのですが、私の本当に聞きたいところというのは、要するに課題をどう捉えられているかということ。現状等について、そういうことをやられている、そういう方向感の中でやられているというのは、いろんな形で知るところではありますし、今の回答の中にもあったんだろうと思いますが、そこにおいて、要は、関係人口の拡大ということに対しての今までの市の当局の考えと、それからコロナ後、もしくは将来を見通した形の中でどう考えていくかというところが、本当の意味での計画に反映していくべきものではないだろうか。そういう面で今まで縷々やられたことを踏まえて、もう来年度から当然次の1次及び総合戦略もスタートするわけですから、これからの10年、もしくは総合戦略としての5年の中で、どういう課題に直面して、その中でどこにポイントを置いてというか、どういう課題を踏まえて今までのやり方を踏襲しようとしているか、もしくは変革させていこうかという、そういう視点で本来的にご説明いただきたいかったということでございます。

それは準備不足だと思いますので、これ以上触れませんが、私の認識としては、まず、推進する人材、これは行政のご担当の皆さんの中で、こういう事業を推進する人材、そういう方が圧倒的にまだ不足しているのだろうと。今のご説明の中にもありましたように、いわゆる外部アドバイザー、コンサルタントと称されている方を活用されてやっていらっしゃる。そういうことでは恐らく従来どおり、なかなか遅々として進まないし、ちょっと的を射た形になっていかない。

もう一つは、今度は地域の受皿として、それを実践していく人材、ここの育成をやはりしっかりしていかないといけないということだろうと思います。ちょっと長くなりますけれども、総務省関係人口創出・拡大事業、MEGURUプロジェクトというのが、今月の12月10日からスタートしておりまして、関係人口を創出するにあたって、地域課題を顕在化するための仕様書作成についての勉強会、研修会が、ウェブでなされておりまして。私もウェブで登録して、昨日の第2回に参加し、お話をお伺いしたのですが、これは鳥取県と塩尻市のほうで主催をされて、当然鳥取市にもご案内が行っているということですが、ここに鳥取市が参加されていない。参加されていたのは境港市、それから大山町、それから智頭町、この3市町でした。中で議論されているのは、結局課題をどう捉えていくのか、突き詰める。こういうことを実現するために自分たちがやってきたことで何がう

まくいかなかったのか、どこがうまくいったのか、それを踏まえてどういう方向感で持っていくのかということ、県がそれなりに予算取りをしてやっていたらいい。私、事前に県庁のほうに聞きに行ったんですが、ここに鳥取市さんとしては手を挙げられていない。今回の基本計画、戦略等も含めて、そうなのでございますが、本当にどういう形で真剣に取り組むべきと考えておられるのか、もしくはそういうスタンスとして持っていたらいいのか、今の中でも私としては直面する課題が何なのか、それをどう克服していくんだと、もしくは関係人口を創出していくのに、最近副業人材云々とか、もしくはワーケーションとかというテーマがありますけども、そういうものが最近なされていくことに関して具体的な言及もないということでは、非常に困ったものだというふうに思っているところでございます。この辺のところは、ぜひ来年度からスタートする中で、もう少し具体的な推進をするべき人材を市の中でも育成していただきたいと思います。また、3市町のお話をお伺いしても、受皿として、彼ら自身も非常にまだ不十分だと、私は昨日のセミナーに参加して感じたんですけども、やはりここは悩みながら課題を克服していくというスタンスといいますか、そういう方向性が必要ではないかということで、意見といいますか、お願いといいますか、そういう形でお話しさせていただきたいと思います。

それと、中心市街地云々の問題につきましても、この種別についてはご説明されたとおりにだろうと思いますが、それを踏まえて、この総合計画もしくは総合戦略に重要な施策として位置づけられているわけですから、向こう5年間を踏まえた具体的な計画、こういうものが今どの辺のところまで進んでおるのか、中心市街地に関しては一応外部委員会をつくって、そこからのいろんな様々なご意見をいただいているとか、もしくは市民の方からいろんなご意見をいただいているということ、前回の市議会議員の質問に深澤市長もお答えになられていたんですけども、全てがまだこれからだということで、本当に来年度からしっかりとした方向性を持ってスタートできるのかということ、この辺のところは少し触れていただけたらと思います。そういう面で、この中心市街地云々といいますか、総合戦略の中でなされようとしている具体的な方向感、もしくはこれからのプロセスについてちょっとご説明をいただけたらと思います。以上でございます。

【林委員長】

関係人口の拡大について、行政の人材不足とか人材育成や、MEGURUプロジェクトに関して、もう少し積極的な動きをしてほしかったということ。それから、中心市街地については向こう5年間の計画について、どういうふうに進めようとしているかというような

ご質問だったと思います。かなり厳しいご指摘もいただいたんですけど、お答えいただける部分で回答をお願いします。

【橋本市民生活部長】

市民生活部の橋本でございます。ご意見ありがとうございます。関係人口の拡大につきましては、おっしゃいますように鳥取市としての課題、先ほど申し上げたとおりなんですけれども、基本計画の中にも関係人口の拡大ということで、本市の中では市民生活部だけではなくて経済観光部、それから中心市街地の関係で都市整備部、こちらでもこういった関係人口の拡大の施策に携わっているところでございます。

先ほどありました、MEGURUプロジェクト、県がされておりますけども、こちらには経済観光部の職員が初回に参加しておりまして、昨日のプロジェクトのほうには、私どもの職員がオブザーバーということで参加をさせていただいております。ただ、鳥取市自体が仕様書をつくるような、そういった団体としての手を挙げていないというのが現状でございますけども、こういった県の取組も参考にさせていただきながら、市の取組を進めていきたいというように考えております。それから、本市では、環境大学に委託をいたしまして、こういった関係人口に関わる地域としての関わり方、こういった調査研究を本年度、進めているところでございまして、こちらでは大学生に地域に入ってきて、アンケートを取りながらいろいろな意見を拾っていただいて、関係人口の取組の進め方について、地域の現状、課題について、まとめていただくというような、そういった事業も行っているところでございます。

ただ、コロナ禍で本当にこの関係人口の関わり方というのが難しい状況もありまして、用瀬地域で週末住人というようなことで、学生のときにたくさん関わっていただいた方で、大学を卒業されて都会のほうに就職された方に、引き続き、関係人口として関わっていただいているのですが、こういった方について、今はオンラインでいろんな交流をしていただくというような、そういった取組も進めているところでございます。コロナ禍の中で、これからこの関係人口の取組をどのように進めていくのがいいか、これについても研究してまいりたいというように考えておるところでございます。以上でございます。

【坂本副委員長】

昨日のMEGURUプロジェクト、鳥取市の方の名前が一応上がって鳥取市と書いてあったのは、鳥取市から参加されているのか、それとも鳥取市の職員の方が参加しているのか、ちょっとそこは分からなかったんですけども、いずれにしても仕様書作成に関して、

本当に取り組んでいるのかということよりも、そもそも仕様書とは何なのかというところをしっかりと押さえていただかないと、この話は進まないだろうと思うんです。先ほど申し上げましたように、結局、外部に委託する、これは智頭町の職員も同じようなことを言われていたんですが、外部人材を持ってきたい、それからそれを動かす人材も外部から呼んできて関係人口を増やしたいみたいなことを言われているんですね。自分たちのところで自分たちの地域のことに対して、行政の推進をしていく人たち自らが、しっかり課題として取り組んでいくと。予算をつけて誰かを引っ張ってくるために、何か私たちはやっているという流れの中では、恐らく何も実現できないのだろうと。ですから、やはり関わる人、推進していくときは、市の主たる職員の方でないと、恐らくこれはできない。それを踏まえて地域に本当に受皿となる人たちを育てていく。その学生を云々というのは、それは将来の勉強のためにはいいかもしれないけども、今これから必要だといっているところに、まだ育つか育たないかも分からない人を前提に頼りにするみたいなことは、僕はナンセンスだと思うんですね。基本的にやっぱりそここのところのスタンスから変えていかないと、恐らく全てのことが絵に描いた餅にならざるを得ないと。そういう危惧を非常に持っておりますので、ぜひ行政の中で鳥取市の中の主たる職員の方が、ここをリードしていただくと。それから、地域の企業、もしくは地域の商工団体等も含めて、もしくは地域の活動をされている方々が真剣にやっぱり手を挙げて自らの課題としてやっていくと、そこに将来の人たちに対して勉強してもらうために参加していただくと、こういう流れの中で将来人材を育てていくということだろうと思いますので、ぜひよろしくご検討いただきたいと思います。以上でございます。

【林委員長】

今のはご要望ということでよろしいですか。

【坂本副委員長】

はい。

【林委員長】

それから、中心市街地の関係も、都市整備部長さん、お願いします。

【谷口都市整備部長】

都市整備部長、谷口でございます。この中心市街地の関係につきましては、先ほどもちょっと触れましたけども、こういう総合計画でありますとか総合戦略の考え方を鳥取市中心市街地活性化基本計画、これに落とし込んで事業を展開しているというところござい

ます。これにつきましても、毎年の事業の成果等も振り返りながら、また皆さんの意見を伺いながら必要なものについて検討を加えておりますし、それから、現在鳥取市駅周辺再生基本構想も第2期のものを作成しております、これにつきましても、皆さんの意見を伺いながら、必要な施策について検討をしているというところでございます。引き続き、皆さんのご意見、必要な施策というのを検討し、加えながら進めてまいりたいというように考えております。以上でございます。

【林委員長】

続いて、残りの事前意見について、企画推進部長さんから回答をお願いします。

【高橋企画推進部長】

それでは、当日配布資料の3ページでございます。まず、3番目のご意見として、地域情報化の推進についてご意見をいただいております。戦略では37ページです。地域情報化の推進は、総合計画では110ページと111ページに同様の内容がございますけれども、行政サービスの向上とか、行政経営におけるデータ活用の視点、ネットワークの整備、こういった点が重要だというようなご意見だろうと思います。おっしゃるとおりだというように私どもも思っております、このたび、国が新しい内閣になってデジタル庁をつくるということで、国はデジタル化を大きな目玉の一つとして捉えています。私どもも従前からこういった情報化、IT化は重要だと思っております、このたび、これを契機に経営統轄監を中心とした、横展開ができるような新たな組織をつくらうということで、12月議会で市長が提案説明いたしました。そうしたことから、庁内の関係部局でチームをつくるということで、もう既に取組を始めているところでございます。来年度には、これをもっとしっかりとした組織にしていけないのかなというように思っております。

それから、次の4番ご意見、総合計画、創生総合戦略について、課題を十分把握して、現状の把握を十分に、年次ごとの予実評価と修正、こういったことが必要だというご意見でございます。こちらについては全般的なご意見だというように思いますが、こちらもおっしゃるとおりでございます、現状分析をしっかり行いまして、毎年行政評価で施策、それから、また事務事業も評価を行ってまいりますので、毎年改善を行っていきたいというように思います。今回お出ししております総合計画に基づく施策に紐づけするような実施計画を、これから編成する準備をしております。こちらにつきましても、今年度中に事業の内容の洗い出しを行いまして、来年の4月からはその実施計画に基づいた事業を行っていくということになるかと思っております。この実施計画は、3年間のスパンで、ひと

まず考えていくんですけれども、毎年評価を行って見直しを行っていく、そういった作業を繰り返していくということにいたしたいというように思っております。施策実現のために実効性のある実施計画、施策実現のためにどのような事業であれば本当に効果があるのか、その辺のことも十分見極めないといけないということを頭に置きながら、実施計画をつくっていきたいというように思っています。以上でございます。

【林委員長】

ありがとうございました。坂本副委員長さん、この点についてはいかがですか。

【坂本副委員長】

どうもありがとうございました。いずれにしろ、私も大分辛口のことを申し上げましたけれども、やはり主体的にどう動いていくのか、それから、課題というのは、恐らく今までやってきたことを踏まえて、どう取り組むかということだろうと私は理解しておりますので、ぜひそういう意味で、やはり官民一体となってということもそうでございますけれども、やはり市の行政の優秀な皆さんが中心になって、具体的な形で推進していく。それに対していろんな意見なり、それを集約されていくということで、あまり何でも話を聞いた上でそれを踏まえて総花的に計画を立てていくというのは、実行という意味でなかなか困難さがあるかと思っておりますので、やはり的を絞ってといいますか、方向感を明確にして、そこでもってコンセンサスをしっかり作り上げる。それが仕様書ということだということのようなことが、昨日のMEGURUプロジェクトで話に出ておりましたけれども、明確な方向感、それからコンセンサスを踏まえる、そのための仕様書づくりと、その中に巻き込んでいくということはどうしていくかというプロセスのほうが、よりスピーディーに効果的に、まずは実効の上がる施策ではないかと思っておりますので、ぜひそういうこともお考えいただいて計画を進めていただきたいと思います。私からは以上でございます。どうもありがとうございます。

【林委員長】

では、今の意見はご要望ということで。それでは、そのほか全般につきまして、ほかの委員さんからご質問とかご意見がございましたら、お願いしたいと思います。前根委員さん、どうぞ。

【前根委員】

前根でございます。先ほど関係人口のお話が出ましたけれども、関係人口というのは先ほど申された観光以上定住未満というような捉え方なんです、我々もなかなかどうい

う捉え方をしているか、ちょっと悩んでいます。一つ言えることが、例えばふるさと納税の納税者さんも、例えば県外から納税される方も多数いらっしゃると思いますので、それらの方々もいわゆる関係人口の中に含まれるのではないかなということ。例えば鳥取銀行がこれから取り組みたいなと思っていますのが、ふるさと納税では商品をお返しするかと思うんですが、その商品をブラッシュアップ、各業者の方に商品のブラッシュアップをしていただいて、より商品を改善していただいて、県外の納税者様に興味を持っていただくような商品の提案をして、納税を増やしていくというようなことを、各市町村さんに対してしていきたいなというようなことも考えています。ちょっと違うかも分かりませんが、その関係人口の捉え方として県外の納税者さんを拡大するというような捉え方もできるのではないかなというように思いましたので、ちょっとご意見をさせていただきました。

それから、これも関係人口に関わるかと思いますが、例えば環境大学の生徒さんとか、鳥取大学の生徒さんでも、いわゆる起業に興味を持たれている学生さんが、やはり多数ではないんですが、いらっしゃるという話を聞きました。例えば県外から大学に来られた学生さんが鳥取を気に入られて、そこで起業されれば、それも関係人口につながるのかなということで、我々もそういった学生さんに対して、これから支援、いわゆる企業の卵の方に対してスタートアップということで支援をしていこうかなというようなことも考えております。金融機関や各民間団体もうまく活用していただいて、これらを関係人口の拡大ですけれども、取組をしていただけたらなというように思っていますので、よろしく願いいたします。以上でございます。

【林委員長】

ありがとうございます。ご提案ということでよろしいですかね。金融機関さんとかいろんな団体さんが、ふるさと納税絡みとか、あるいは大学の起業を考えている学生さん、そういう方々とうまくコラボしながら、関係人口につなげていくというようなご提案ということですね。

そのほか何か、委員さんでご意見はございますでしょうか。下田委員さん、お願いします。

【下田委員】

下田でございます。市民政策コメントをいただいた中で、ちょっと気になったのが、産後ケアの意見が非常に多いということでございます。私もこの事業をされている方が事業を立ち上げられたときにご挨拶に来られたので、事業は知っているんですけど、こんなに

意見が出るのかなと思うほど、先般はテレビで取り上げられたり、議会でも質問されていらっしゃるようです。実際、鳥取市でもいろんな保健センターというか、そちらで産後の事業をされていると思うんです。こちらがこんなに困っているというのは、多分関係者の方がコメントを出されて、こんなに意見が出ているんじゃないかなとは思いますが、鳥取市の考え方は書いてあるとおりは思います。こういうところに、実際こんなにニーズがあるのかなと最初に挨拶に来られたときは思わなかったんですけども、実態として、こんなに困っている方がいらっしゃるのであれば、そういう必要な支援、既存の鳥取市がやっておられるいろんな子育てサロンであるとか、産後のサロンであるとか、そういうところも少しPRしていただいて、育児不安とかそういうものの解消につなげていただくようなことを取り組んでいただけたらなというように思います。これは意見です。

【林委員長】

ありがとうございます。確かに、私も見て、産後ケアの関係の意見が非常に多い、いろいろ困っていらっしゃる部分もあるのかなというように思いました。いろいろな手だてはしていらっしゃると思いますが、PRの不足なのか、その辺もよく分からないんですけども、また検討していただいたほうがいいのかもしれないです。これについては回答をお願いします。

【岩井健康子ども部長】

健康子ども部長の岩井でございます。下田委員さん、貴重な意見をありがとうございます。言われるとおり、鳥取市としましても、ここで取り上げられていますのは産後ケア事業ということですけど、それ以外にも、こそだてらすに出産前から子育て期まで、保健師と看護師と助産師等がおりますので、相談に乗って、いろいろ支援をしているというようにもございます。そういったような幅広の対策支援というも行っているということがございますので、この産後ケア事業につきましても、箇所数が少ないことがございますが、それらも併せまして何かいい方向ということも検討させていただきたいと思っておりますし、現在の事業につきましてもしっかりとPR、周知をさせていただければと考えております。ありがとうございます。

【林委員長】

ありがとうございました。そのほか、何かご意見とかご質問はございますでしょうか。小谷委員さん、どうぞ。

【小谷委員】

小谷です。今回、追加された部分でちょっと気になる記載があったので、これでいいのかどうかも分からないんですけども、少しだけお話したいと思います。基本計画の35ページになります。子どもの貧困対策の推進というところです。関係するところがかなりまた出てくるかと思えますけども、この中の「世帯全体への包括的・継続的な支援を行うため、保健・福祉・教育・雇用等が連携するとともに」という、その雇用等が連携するとともにというのが、何か中途半端で、もう少し関係部署とかそういうものが入らないと、何となくおかしくないかなと思いついて見させていただいたんですけども、そのところはどうかでしょうか。

【林委員長】

事務局で回答をお願いします。

【上田政策企画課創生戦略室長】

事務局の上田でございます。この記述につきましては、関係課で話し合っただけで記載をさせていただいておりますけども、今、ご意見をいただきましたので、もう一度ご意見を踏まえて記載内容の検討を事務局でさせていただこうと思います。

【林委員長】

多分、雇用等の部署だとか何かは抜けているのかもしれませんが、では、ご検討いただくということで。

ほかに、何かご質問、ご意見はございますか。よろしゅうございますか。

それでは、また何か気がつかれることがあったら、最後にまた皆さんからご意見を頂戴するようにいたしますので、ここでこの部分については終わらせていただきたいと思えます。

先ほど総合計画の5ページから6ページの財政見通しのところで、今のところは暫定数値で答申を行って、市の令和3年度当初予算編成を踏まえて、事務局で数値を修正させていただいて、議会に提案するというような説明がございました。今は暫定値の形でせざるを得ないということですが、その修正内容について、もう一度委員会を開くことはちょっと難しいので、皆さんもそういう形となるということで、ご了解いただくということ、ここで確認させていただいてもよろしゅうございますか。

では、それは事務局で修正をするなら修正させていただくということで、お任せいただくということにさせていただきます。

それでは、議事（1）第11次鳥取市総合計画（答申案）及び第2期鳥取市創生総合戦

略については、終了させていただいて、(2)の11次鳥取市総合計画実施計画のイメージについて、事務局より説明をお願いいたします。

【上田政策企画課創生戦略室長】

事務局の上田でございます。資料4をご覧くださいと思います。実施計画のイメージということでまとめさせていただいております。

先ほどの総合計画の基本構想に記載させていただいておりますけども、こちらを毎年度予算の編成に併せまして策定していくというように考えております。

1ページをご覧くださいと思います。総合計画は3階建ての構造になっておりまして、10年間の基本構想、それから5年間の基本計画、こちらについて先ほどまでご意見、ご提案をいただいたところでございます。その下、実施計画、こちらにつきましては毎年度見直ししながら策定していくというように考えております。真ん中下に、三角形の図をつけております。実施計画につきましては、このピラミッドの一番下の土台部分、基本施策を実現するために推進する事務事業を定めていくというふうなつくりになっております。さらに、その下、2番の対象事業というところをご覧くださいと思います。対象とする事業につきましては、基本計画で定めました施策に特に関わりの深い主要な事務事業、こちらを位置づけていきたいというように考えております。日常的に行われるようなコピー代ですとか、庶務事務、施設の管理、こちらは対象外にしていくというように考えております。

2ページをお開きください。3番の計画期間、それから運用というところでございます。施策の目標の達成に向けまして、毎年度進捗状況を把握し、それから新たな課題を踏まえまして、事務事業の検討を行いまして、予算編成に併せて見直しを行っていくというように考えております。計画については3年間の計画ということで、この図のようにスライドしていくということで考えております。基本計画が5年間の計画ですので、この実施計画につきましては5回策定する、毎年策定するというようなイメージでございます。

右側3ページをご覧ください。実施計画の構成のイメージになります。こちらは、これから位置づけていく事務事業、こちらを集計するような総括表の欄となっております。複数の施策に関連するような事務事業があった場合につきましては、主たる施策を1つ決めまして、そこに位置づけていこうというように考えております。

1枚めくっていただきまして、右側5ページをご覧ください。実施計画の内容一覧のイメージです。この上に、総合計画、それから総合戦略の目標等を記載しまして、35の基

本施策の中から、こちらに1つ記載します。その下に、基本施策とありまして、推進していく基本施策を位置づけていくということになります。その下にずっと一覧表がついていまして、その施策を推進していくための事務事業等を所属別で記載していくというふうなつくりにしております。初回となります第1期の実施計画、こちらにつきましては、現在編成中ですが、令和3年度当初予算、この編成結果を踏まえまして、本年度末までに策定させていただくよう考えております。

実施計画のイメージの説明は以上です。

【林委員長】

総合計画の実施計画のイメージについての説明でした。現状では、中身が入っていないので、ちょっと分かりにくいかもしれませんが、こういう形のを毎年つくって、また実績を確認していくということになるようでございます。今のイメージの説明について、何かご質問とかご意見がありましたらお願いします。こういう形の冊子ができるということですね。よろしゅうございますか。

【上田政策企画課創生戦略室長】

はい。

【坂本副委員長】

初歩的な質問かもしれませんが、実施計画の中身は、計画というよりも項目だけということですか。それとも具体的にそれぞれの個別の詳細な項目の中にそれぞれのスケジュール感が入っているのか。もしくは、評価に関する、いわゆるKPI的なものと、KGIからKPIに落としたようなもの、そういうものもワンセットで随時、要はどこまで開示されているかちょっと分かりませんが、担当部署からすると、これがどのような形で指示されるのかといいますか、担当部署に対して下ろしていかれるのか、ちょっとその辺の立てつけをちょっと教えていただけますか。

【林委員長】

お願いします。

【上田政策企画課創生戦略室長】

事務局の上田でございます。こちらに位置づけていく事業としましては、予算を伴う事務事業ということで、施策を推進する手段のところとなります。予算を投入しまして、施策の実現に向けて進めるための事務と事業、それを位置づけます。こちらには、概要としまして、おおむね3年間に取り組むような内容を書かせていただきまして、それが5ペー

ジの真ん中の列になります。第1期の初回の実施計画ですと、令和3年から5年度までの事業の概要を真ん中に書きまして、その右側にはその中の初年度に何をするのかと、例えば給付、助成、補助金、補助をする、そういったことで政策を実現するというのであれば、〇〇の助成事業を実施するというようなことで、ここに位置づけます。これは施策を実現する手段の事業をここに位置づけていくということになります。

さらに、詳細がどんな内容なのかということをご覧いただくものとしまして、少し左側、事業の概要の左側に、事業別概要、ページ番号と、少し細い列ですけども書いております。当初予算編成、それから補正予算、その都度、その事業の概要を整理しました事業別概要というものを議会に提示しておりまして、それは、ホームページでも公開しており、見ていただけるようにしております。それには予算の内容、財源がどうなっているのかとかですとか、過去の事業実績なども出てきます。そういったことで、位置付けた事務事業の詳細について参照いただけるようなつくりにしまして、市民の皆さんにもよく分かっていただけるような実施計画にしていこうということにしております。

この様式を各課に配りまして、現在当初予算編成中ですけども、その施策の実現に向けて予算要求しているものを、ここに位置づけてくださいという作業をこれから行おうとしています。以上でございます。

【坂本副委員長】

ということは、やるべきことと、細かいところと、それに対する期限と、それからそれに関わるコスト、費用感、予算ですか、そういうものも明示されたものが出来上がって、それは議会に出されるという形なんですか。

【林委員長】

お願いします。

【上田政策企画課創生戦略室長】

事業別概要という先ほどページ番号、この実施計画の左側に書いておりますけども、この事業別概要というものが予算説明の附属資料として出ていくので、議会でもチェックをいただくということでございます。この実施計画を構成する事業の詳細は、事業別概要でコストも含めて確認可能なつくりをしているというところでございます。

【坂本副委員長】

それともう一つは、これを1つの事業、年度ごとに評価していくということですから、その評価の基準であるとか、評価のフォーマット、そういうのも併せてもう出来上がって

いるというふうに理解してよろしいですか。

【上田政策企画課創生戦略室長】

上田でございます。今、事務局でたたき台を既に作成しております。現在、こういった様式でうまく評価ができるかどうかなど内部で検討を進めているところでございます。

【林委員長】

ありがとうございます。そのほか、このイメージについてご質問等ございますか。よろしゅうございますか。

ありがとうございます。それでは、4の議題は、これで終わらせていただいて、5の報告に入らせていただきたいと思います。（1）の鳥取市創生総合戦略の評価等について、及び（2）令和元年度地方創生推進交付金事業の実績報告について、事務局より説明お願いいたします。

【上田政策企画課創生戦略室長】

事務局の上田でございます。資料5-1、A4横の資料をご覧いただきたいと思います。第1期の創生総合戦略、5年間の達成状況という資料でございます。こちらにつきましては、8月27日になりますけども、第3回のこちらの委員会で一度報告をさせていただいているものでございます。その際に、この下の赤字で囲っているところとなりますが、観光入込客数、こちらが県の集計値の公表待ちということで未確定ということでございましたが、数値が公表されましたので、赤字で記載しております。令和元年度実績、294万9,000人ということで、鳥取砂丘・いなば温泉郷の観光入込客数ということで公表されましたので、これを踏まえ内部評価等行いまして、さらに総合企画委員さんをお願いしまして、外部評価も実施させていただいたところでございます。

結果としましては、その294万9,000人の右側になりますが、評価結果は外部評価Bということで、Bの内容につきましては、ほぼ計画どおりに進捗しているという評価結果でございました。その下、今度はKPI、こちらの達成状況ということで、修正前黒字で修正後赤字ということで記載させていただいております。このうち、一番下の表になりますが、下の表の右側、外部評価というところですが、この中のC評価というところが、一番下から2行目になりますが、まちづくりの行です。8件だったのが9件ということで1件増えております。このC評価というのは、目標をやや下回る、要因の分析を要するなど、今後の進め方を再検討する必要があるという意味の評価となっております。

具体的には3ページをご覧いただきたいと思います。こちらの下、左側2列目の管理番

号99番、シティセールスの推進というところでございます。こちらが評価結果としまして、外部委員さんのご意見としましては、C評価であるという結果でございました。委員の皆様の評価やご意見を踏まえまして、引き続きこちらは改善を図っていくように考えております。

続きまして、資料6をご覧くださいと思います。今度は縦になります。地方創生推進交付金事業の実績という資料でございます。こちらの交付金につきましては、地方版創生総合戦略、鳥取市でいいますと第1期の戦略になります。こちらの取組を複数年にわたって国が支援するものでございまして、国の交付金を活用しまして、鳥取市は現在第1期の戦略の取組を進めているというところでございます。

下の真ん中辺りになります、3番の交付金事業の概要というところをご覧くださいと思います。令和元年度は、5つの事業、プロジェクトといえますか、そういったものに取り組んでいるところでございます。

(1)につきましては、DMOになります。麒麟のまち観光局、こちらの運営支援ですとか、旅行雑誌への観光情報の掲載や、駅前での鳥取砂のルネッサンス2019、こちらの開催等を行いまして観光客の増加に取り組みました。それから、大阪等で田舎暮らしフェア、こちらにも出展を行いまして、いなか回帰の促進にも取り組んでまいりました。

(2)につきましては、地域商社とつとり、こちらの運営支援を行いまして、事業者の発注機会の拡大支援ですとか、農商工連携のマッチング支援、商談会の開催などを進めました。それから、次世代農業を推進するためのスマート農業の実証実験、あるいは高校生の企業見学会など人材確保にも取り組みまして、併せてまちのにぎわい創出に向けたリノベーションの勉強会ですとか、遊休不動産の活用イベント、こちらの開催支援に取り組みました。

3番につきましては、高度外国人材、こちらの供給体制を整えるために市内の日本語学校の運営支援を行いました。それから、外国人留学生を対象に市内企業へのインターンシップも実施し、地元企業への就職機会の創出などにも取り組みました。

それから、4番につきましては、麒麟のまち圏域、こちらの観光客の増加に向けまして、砂丘にあります鳥取砂丘ビジターセンターの運営支援ですとか、海外向けの誘客のプロモーション活動、それから湖山池の遊覧船の船着場の整備等の支援、それから小学生のジオパーク学習会などの開催を行いまして、観光資源の磨き上げですとか、子どもたちへ魅力を伝える取組を実施しました。

1枚めくっていただきまして、5番の事業につきましては、大阪の中之島に麒麟のまち関西情報発信拠点を設置しておりまして、こちらの運営ですとか情報発信、それから生鮮野菜の即売会、販売、ブランド化の推進など、併せて交流人口の拡大にも取り組みました。

この2ページのすぐ下に、4番、事業実績の概要を一覧で書かせていただいておりますが、一番下に、事業費を記載しております。事業費は2億6,805万8,000円、このうち交付金の活用につきましては、1億3,241万9,000円ということでございました。この交付金事業につきましても、総合企画委員のしごとづくりのグループ、それからまちづくりのグループの委員の皆さんにお願いしまして、外部評価を実施しました。これら5事業のうち、左側に番号を振っておりますが、1番、4番、5番、この3つにつきましては評価結果、右側に書いております、KPI達成に有効ということで評価をいただきました。また、2番と3番については、KPI達成に有効とはいえないのではないかとという厳しい評価をいただいております。この評価結果を踏まえまして、また各部局で改善に取り組みまして、引き続き施策を推進していくよう考えております。

説明は以上でございます。

【林委員長】

ありがとうございました。ただいま報告事項、それぞれ2項目ですかね、報告をいただきました。何か、今までの報告についてご質問、ご意見等ありましたらお願いします。では、坂本副委員長さん。

【坂本副委員長】

今さっき、説明された資料6のKPI達成に有効とはいえないという評価が2項目ありますと。1つは外国人人材の活用のところと、それからもう一つはしごとづくりのところということですが、これは原因といいますか、KPI達成に有効とはいえないという評価になっておるということですが、KPIそのものが間違っていたのか、もしくは施策そのものがちょっと的外れだったのか、その辺のところはどういうように評価されているのか。外部評価というよりも、市の取組として、どのような形で評価されているかをお伺いしたいと思います。

【林委員長】

これは、企画推進部でよろしいですか。では、企画推進部の事務局で回答をお願いします。

【上田政策企画課創生戦略室長】

今、ご質問いただきました点につきましては、この交付金事業の事務局としまして、内容を振り返り、評価を行ってきました。まず、2番のしごとづくり、地域商社のところにつきましては、各委員の皆さんの評価結果とそれからご意見もいただいておりますので、それを併せて見させていただくと、一つには地域商社の赤字をしっかりと改善していかないといけないのではないかというようなご意見をいただいていたところでございます。また、この評価結果にあります6次産業化の取組件数がゼロ件ですとか、正規雇用創造数、目標3,070に対して1,937ということで、目標は掲げてはいるものの、なかなかそこにまだ至ることができていないというところで、手段が間違っているというよりも、少し目標が高かったのかもしれないが、努力が要るんじゃないかというようなニュアンスのご意見をいただいていたというように事務局としては分析をさせていただいております。

それから、3番目の外国人材につきましては、こちらは日本語学校さんの取組が中心ですけれども、開校がおおむね1年ぐらい遅れまして、そのために学生が入学される時期もずれてしまいました。それに伴って評価指標もなかなか当初の目論見どおりには至っていないということで、これもどちらかといえば、設定したKPIに対して、まだ目論見どおりにっていないんじゃないかというような意味合いの評価をいただいていたものというように事務局としては分析しております。以上です。

【坂本副委員長】

2番目の事業で、農商工連携マッチングに関しては、一応目標値100%達成ですね。それから、地域商社取引契約件数という意味では3倍以上、4倍近く、実績値があるにもかかわらず、正規雇用創出ができていない、それから6次産業化取組事例がゼロと、こういう形ですよ。そうすると、この辺のところは恐らく内容的に、実際の活動状況とも、もしくは施策の中での内容的なもの、もしくは評価指標、それをしっかり見直す必要があるのではないかというふうに、この数字だけ見ると感じる場所ですけども、いかがでしょうか。

それと、もう一つ、外国人材の件は、今回のところは、コロナの影響をかなり受けたということもあろうかと思っておりますので、ここはまた内部的に本当に当初目的に照らした形で進んでおるのかどうかというところを精査していただけたらと思っております。以上でございます。

【林委員長】

今のはご要望ということで。それでは、そのほか、何かご質問、ご意見はございますで

しょうか。吉田さん、お願いします。

【吉田（正）委員】

ちょっとこの表の見方を教えていただきたいです。3ページ以降なんですけど、3ページ、令和元年度地方創生推進交付金事業評価シートがございますよね。4ページに、具体的に事業費等について④、⑤、⑥と記載してあります。それから、5ページにも次の事業評価シートがございますして、6ページには、先ほど言った事業費なり事業業績評価資料がなかったりしますよね。それから、8ページの下のほうに、内部評価基準と書いてあって、③に地方創生に効果があったということで内部評価のところに③がありますよね。次のページ以降もずっと見て思ったのですが、何か一貫性がないというか。私の見方が悪いのかもしれませんが、この表の見方を教えていただいたらありがたいです。

【林委員長】

では、事務局から説明をお願いします。

【上田政策企画課創生戦略室長】

評価シートの見方について説明いたします。まず、3ページをご覧くださいと思います。まず、一番上に事業名を書いております。事業名は、すぐ左側2ページ、先ほど概要を説明させていただきました事業の名称と同じでございます。この評価シート、事業が5本ございますが、この5事業分のシートが連続する形の資料となっているため、非常に見づらくなってしまったのかなと思います。本日の会議資料として一つにまとめております。上から見ていただくと、事業の概要、この事業でどんなことをやっているのかということ、まず記載させていただいております。そのすぐ下に令和元年度実施事業ということで、個別具体の事業の内容を右に書いております。例えば広域観光連携事業ということで、事業名をつけまして、その中では右側にありますけども、（1）地域連携DMOを中心にした観光ルートの開発ですとか、（2）アストロパークの展示の多言語化を行ったですとか、さらに右側には具体的に何をしたのかということで、（1）ですと、DMOの運営支援、それから旅行雑誌、旅色の作成、それから（2）のアストロパークにつきましては展示内容の英語、韓国語等のパネルを作りましたというふうに見ていただければと思います。

そして次、1枚めくっていただきまして、事業番号2が移住促進事業ということで同様の見方をしていただければと思います。下に下りまして、④で、かかった総事業費は幾らなのかということで、総事業費は8,268万1,000円と、そのうち国の補助金を4,

134万活用しましたということでございます。その下、重要業績評価、5番でございます。この施策がうまくいったかどうかということで評価指標を設定しておりまして、本事業では2つ設定しています。圏域への観光入込客数、この指標に関連する事業としましては、1と書いておりますが、1つ前の3ページ、広域観光連携事業の左側に1と書いておりまして、広域観光連携事業の進捗度をはかる指標として設定したものであるということです。こちらの目標に対しての実績を記載しておりまして、達成率92.8%ということでございます。そのすぐ下の圏域への移住定住数、こちらは関連する事業が2ですので、この4ページ上の事業番号2、移住促進事業の指標でいうことでございます。こちらは達成率120%ということで、この2つを併せて担当関係部局のご意見も踏まえながら事務局で評価をしまして、②相当程度効果があったとしております。こちらは国の交付金の評価基準がございまして、そちらに当てはめて評価をしたということです。そして、そのすぐ下に今後の方針ということで、その1番事業、2番事業を次年度以降どう進めていくのかということを書いております。続いて、5ページですが、市が行った内部評価を踏まえまして、こちらに各委員の評価、委員の名前を書いておりませんが、お一人お一人のご意見、それからご意見に対して市の考え、回答ということで書かせていただいております。

また1枚めくっていただきまして、一番下に外部評価基準を記載しています。この6ページでいきますと、上の表の左側に評価①とあります。①というのは、この下の外部評価基準でいきますと、KPIに対して有効であったということであり、②であれば有効とはいえないということでございます。

こちらの事業につきましては、まちづくりの委員さんに評価をお願いいたしまして、7名の委員さんが評価されました。①KPIに対して有効であったということで評価された方は4名、②の有効とはいえないと評価された方が3名ということで、一番多い委員さんの評価結果を外部評価の結論として設定させていただいたというようなつくりでございます。そういうふうに見ていただければと思います。以上でございます。

【林委員長】

ありがとうございます。なかなか資料が細かく書かれていたので、まだ、ゆっくりご覧になっていらっしゃる方もあるかもしれませんが、よろしいですか。

【吉田（正）委員】

理解できました、ありがとうございます。

11ページですけど、内部評価が③になっていますね。KPI達成率、1が0.0%、

それから2が36.7%となっていますが、下の内部評価基準を見たら③は地方創生に効果があったということのようですが、内部評価は③でよろしいのでしょうか。

【林委員長】

事務局で回答をお願いします。

【上田政策企画課創生戦略室長】

ご意見ありがとうございます。恐らく、非常に達成率が低いのに効果があったというのは、いかななものかというご意見というように思いました。この国の評価基準の設定の仕方、見方というのが、基本的には1件でも成果があれば何らかの効果はあったのではないかというような見立てといたしますか、そういった評価の仕方になっております。非常に低い成果なのですが、何かしらの効果はあったというような評価をするという運用であるため、③になったというところでございます。そういう意味でいいますと、やはり②や①と内部評価ができるようなところを目指していく、そうならないといけないというようなものかなというように考えております。以上でございます。

【林委員長】

ありがとうございました。そのほか、何かご質問、ご意見はございますか。浜江さん、お願いします。

【浜江委員】

この資料を読ませていただいて、私は大変共感した意見がありました。6ページの一番下のご意見です。三世代同居推進対策も必要ではないかというご意見なのですが、コンパクトシティという話が出てしまって、やはり中山間の取り残されていく地域というのは大きな問題だと思っています。その中で、この三世代同居推進、私も必要だと思います。先ほど産後ケアの話もありましたけれども、核家族化が進むと、やっぱり育児とか子育てとか相談する相手がありません。世の中の流れといってしまうと仕方がないのですが、この辺り、こういう地域だからこそ、どこに力を入れるかというあたりを考えたときに、これはとても大切なご意見だなと思ったので、ここで意見を一つ言わせていただきました。

もう一つは、ちょっと前に頂いたストリートミーティングの資料の中で、移住・定住に関わる方々のご意見というのが書いてありました。とてもいいなあという意見がたくさん書いてあるのですが、これは、これから移住・定住を目指してくださる日本全国の方々に伝わっているのでしょうか。鳥取市をこんなにいいなと思ってくださっている方が

たくさんいるよということが、移住・定住を呼び込む一つのアピールになるのではないかと考えていますので、こういういいご意見を有効に活用していただけたらなと思いました。以上です。

【林委員長】

ありがとうございました。そのほかよろしいですか。

そしたら、もう時間も大分進んできておりますので、5の報告についてはここで終わらせていただきたいと思います。

ここまでで全体を通して、何かご意見等言い残したことがあればおっしゃっていただけたらと思いますが、よろしゅうございますか。

では、ここで、質疑応答、意見交換は終了させていただきます。これまでの議事や報告でいろんなご意見出ましたので、ここで市長さんより一言お願い申し上げます。

【深澤市長】

長時間にわたりまして、様々なご意見、ご提言をいただきましたことに、まずもって心より感謝申し上げます。言い残したことはというふうなことでありますが、この会はこの会として、また今後もいろいろご意見、ご提言等いただけましたら大変ありがたいなと思っております。

この総合計画、総合戦略、これを定めていく、策定をしていく、議会でもご審議いただくわけでありませけれども、やはり今、世の中は非常に短いサイクルで大きく変化しているように思われます。そういった中で、行政課題、日々正確に見極めながら、それに的確に、またスピーディーに対応していくということが私たちに求められているのではないかなと思っております。そういったことができる人材、この鳥取市役所でもこれから育成をしていくということは必須であると、このように考えております。また、専門的な知見もいろいろ活用しながら、私たちだけではなかなか力不足な、十分でないところもありますので、様々な知見も活用していくということも必要ではないかなと思っておるところであります。この総合計画、また総合戦略、これは策定して終わりということではなく、毎年しっかりとローリングをしながら、検証をしていく。また新しい課題、テーマ等が出てくれば、それは順次取り入れていくというようなことが、不断に求められるのではないかなと思っておるところであります。

冒頭申し上げましたように、2025年問題もすぐ目の前にやってくるわけでありまして、また、2040年問題ということも国でいろいろ検証されて、その対策を今どう打ち

出していくのかというようなこともあります。我々も将来をいろいろ想像しながら、想像力を働かせながら、バックキャスト的にやっていかなければならないことをしっかりとやっていくということが、目の前の課題に対応していくということと併せて必要だと思います。そういったことが、この総合計画等を自治体で策定をするということの、その意義ではないかなと思っています。どうしても総花的になるところ、非常に多岐にわたる様々な分野についての計画になりますので、総花的にならざるを得ないところ、やむを得ないところもありますけれども、しっかりその辺りは実際に計画として、しっかり機能するように、それは意を用いていかなければならないと思っています。

産後ケアについての意見が多いんじゃないかというふうなご意見もいただきましたけども、このパブリックコメント、市民政策コメントの一つの特性として、無作為抽出等で均等に母集団の意見をいただくということではないため、やはり少し、何と申しますか、ある分野で意見が多くなるというような現象もあるのではないかなと思いますが、いずれにいたしましても、鳥取市が取り組んでおります育児ケア等々について、もっとPRをしていくということが改めて必要ではないかなと、ご意見を伺いながら思ったところであります。

また、三世代の同居の推進につきましても、昨日12月定例市議会が閉会となりましたが、実は一般質問の中で、こういったご趣旨のご質問を議員さんからいただいたところがあります。実際に秋田県でしょうか、こういうことを奨励と申しますか、進めていこうとしておられます自治体もございます。また一方では、どうあるべきかというようなことも、それぞれ個人のお考えによるところも大きいですので、行政として推進をしていくべきなのかどうなのかというようなことも、また改めて検討、研究をさせていただければと思っています。

年が明けましたら、また、答申案としていただけるというように思っておりますけれども、また、議会でもその後ご審議、ご議論いただくということでもありますので、まだ完成形にはなりませんけれども、いずれにいたしましても、来年度からこの計画がスタートできるように、また委員の皆様のご意見、ご提言等賜りながら、我々も取り組んでまいりたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。どうもありがとうございました。

【林委員長】

ありがとうございました。

それでは、6、その他になります。事務局より何かございますか。お願いします。

【岡墻政策企画課創生戦略室主任】

失礼いたします。事務局創生戦略室、岡墻でございます。

第6回、次回の鳥取市総合企画委員会につきましては、令和3年3月下旬の開催に向けて、現在日程の調整をさせていただいているところでございます。日程が確定次第またお知らせいたしますので、よろしく願いいたします。

【林委員長】

ありがとうございました。

以上をもちまして、令和2年度、第5回の鳥取市総合企画委員会を閉会させていただきます。今年最後の委員会ということで、お忙しい中ご出席いただきまして誠にありがとうございました。どうぞよいお年をお迎えくださいませ。これで終わらせていただきます。ありがとうございました。